

高次脳機能障がい

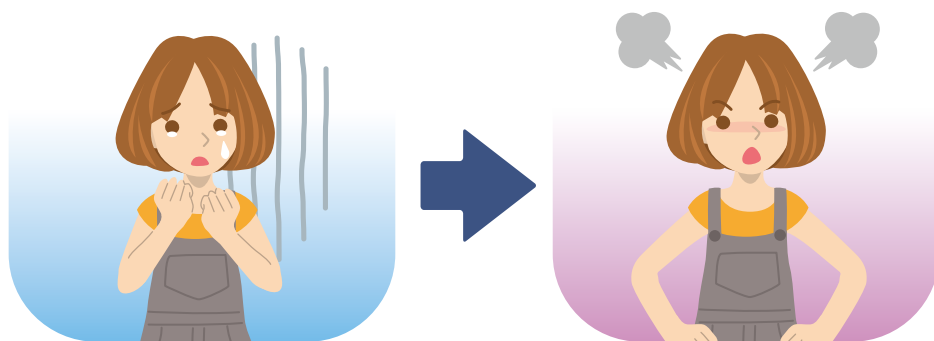
高次脳機能障がいは、交通事故、スポーツ事故、転落事故などによる頭部外傷や、脳血管障がい、脳腫瘍、低酸素脳症などの脳疾患などにより脳に損傷を受け、記憶障がい、注意障がい、失語や感情のコントロールの低下といった社会的行動障がいなどが引き起こされるものです。

高次脳機能障がいの症状は脳の損傷部位によりさまざまであり、後天的な障がいであるため、これまで当たり前に行っていたことができなくなったことへの対応に、本人も周囲も戸惑ってしまう場面が多くあります。

困っていることを理解しましょう

少し前のことをすぐ忘れてしまう、注意力が散漫で集中力が続きにくい、言葉がうまく出てこない、うまく伝えられない、おつりの計算など簡単な計算ができない、よく知っているはずの道に迷うことがあります。

会話する際には、ごく普通であるのに、行動するとなった時に簡単なことができない人もいます。そういったことから、なかなか周囲の理解を得ることができません。

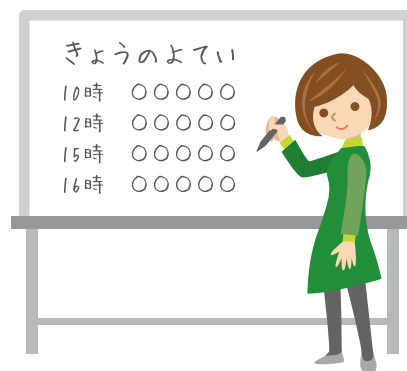


何らかのきっかけでいきなり泣きだす、怒りだすなど感情のコントロールが難しい人もいます。冷静に話をするのが困難な場合が多いため、時間をかけ、落ち着くのを待ちましょう。

こんなことに配慮しましょう

物事が思い出せない、覚えられないといった場合には、必要に応じて言葉で伝えるだけでなくメモを渡すなどしましょう。何らかのきっかけでいきなり泣きだす、怒りだすなど感情のコントロールが難しい人には、冷静に話をするのが困難な場合が多いため、時間をかけ、落ち着くのを待ちましょう。

新しいことを覚えられない、約束を忘れてしまうなど記憶に障がいがある人には、メモやスケジュール表など、目に見えるかたちで手助けをしましょう。



音声コード

